

情報公開用文書（附属病院で実施する医学系研究）

（単施設研究用）

西暦 2022 年 6 月 8 日作成 第 1.0 版

研究課題名	子宮頸部円錐切除術後の子宮頸部細胞診およびハイリスク HPV 検査に関する後方視的検討
研究の対象	2019 年 7 月 1 日から 2021 年 12 月 31 日までに横浜市立大学附属病院産婦人科で子宮頸部円錐切除術を施行した患者さん
研究の目的	子宮頸部円錐切除術後の子宮頸部細胞診およびハイリスク HPV 検査の結果がどのようになるかを調べます。
研究の方法	診療録から対象患者さんのデータを抽出します。いずれも通常の診療で得られた情報を用いますので、研究対象の方のご負担になることはありません。
研究期間	研究機関の長の許可日～ 2024 年 3 月 31 日
研究に用いる 試料・情報の項目	対象患者さんの基本情報（年齢、身長、体重、既往歴、妊娠分娩歴、月経歴、手術歴等）、術前の子宮頸部異形成の経過や状態、手術術式（摘出検体の大きさ、手術時間、出血量等）、術後の子宮頸部細胞診やハイリスク HPV 検査の結果等の診療情報
試料・情報の授受	本研究では、外部機関との情報の授受はありません。 情報は、当院で少なくとも 5 年間保管します。廃棄する際は、個人を特定できないように処理した上で復元できない方法で廃棄します。 なお、本研究で収集した情報は、他の研究に二次利用する可能性があります、その際は新たに研究計画書を作成し、倫理審査委員会の承認及び研究機関の長の許可を得たうえで行います。
個人情報の管理	個人名など単体で個人を特定できる情報を削除し、研究用の番号（識別コード）で管理します。必要時に個人を照合できるよう管理する表（以下、対応表）を作成して、個人と識別コードから個人を特定することが可能になりますが、その対応表は当院外へ提供することはありません。
試料・情報の管理について責任を有する者	当院の個人情報の管理責任者は病院長ですが、その責務を以下の者に委任され管理されます。 横浜市立大学附属病院 産婦人科 （研究責任者）今井 雄一

情報公開用文書（附属病院で実施する医学系研究）

（単施設研究用）

利益相反	利益相反とは、研究成果に影響するような利害関係を指し、金銭及び個人の関係を含むものです。 本研究は横浜市立大学産婦人科の基礎研究費を用いて行うものであり、開示すべき利益相反はありません。
研究組織 （利用する者の範囲）	横浜市立大学附属病院 産婦人科 （研究責任者）今井 雄一
本研究に関するご質問・ご相談等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。 ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますので下記連絡先までお申出下さい。 また、試料・情報が当該研究に用いられることについて研究の対象の方もしくはその代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象といたしませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも研究の対象の方に不利益が生じることはございません。ただし、拒否のお申し出をいただいた段階で既に研究結果が公表されていたときなど、データから除けない場合があります。	
問合せ先および研究への利用を拒否する場合の連絡先： 〒236-0004 横浜市金沢区福浦 3-9 横浜市立大学附属病院 産婦人科 （研究責任者）今井 雄一 電話番号：045 - 787-2800（代表） FAX：045 - 701 - 3536	